

大学発新産業創出プログラム 社会還元加速プログラム(SCORE)
事後評価結果通知

課題番号	STSC30011
研究開発課題名:	水中着用型センサスーツによる水泳訓練およびリハビリテーション評価技術の事業化検証
研究代表者(所属・役職・氏名)	筑波大学 システム情報系 助教 廣川 暢一

1. ビジネスモデル仮説検証の目的

本プロジェクトでは、水中着用型センサスーツを用いた定量的なパフォーマンス評価やユーザーへのフィードバック技術により、従来の水泳指導や水中環境を用いたリハビリテーションの場面における指導者とのマッチングや経済的負担、モチベーションの維持・向上に関する課題を解決することを目的としている。水泳などのスポーツでは指導者が学習者に指導するのが一般的であるが、優れた指導者の確保が難しいことに加え、学習者の経済的負担も大きい。そこで、従来技術では計測困難な学習者の水中運動データを簡便に取得することで指導者とのコミュニケーションの課題を解決するとともに、優れた指導者のノウハウの蓄積により誰でも低コストで仮想的な指導を受けることが可能となるようなサービスを目指す。

2. ビジネスモデル仮説検証の概要

本プロジェクトでは、主に上記のユーザーに関する仮説の検証を行うとともに、ユーザーの持つ課題を解決するためのプロダクトの MVP の製作を行った。ユーザー仮説の検証のため、筑波大学水泳部や市内・市街のスイミングクラブを訪問し顧客や指導者・経営者のそれぞれについてヒアリングやインタビューを行った。その結果、現状の水泳指導方法や経営に関する課題が明らかになったとともに、提案するサービスによりそれらの課題のいくつかが改善される可能性を確認し、想定顧客・ユーザーからも導入の意思や許容支払額など実際にサービスを開始する段階で有用となる情報を得られた。また、ユーザーから希望のあった機能を実装するために必要なハードウェアの改良なども本プロジェクトの実施期間中に行った。

3. 総合所見

ビジネスモデル仮説検証を通して顧客のターゲット層を明確にした点、及び人的ネットワーク構築した点を評価する。今後も、他分野への展開も検討しつつ、事業化に向けて継続して活動することを期待する。

以上